

英米語における「良心の呵責」(the pangs of conscience)の概念

生井利幸

本稿において英米語における「良心」(conscience)の概念を考察するにあたり、まず第一に、「道徳」(morality)と「良心」(conscience)の概念の相違について述べなければならないであろう。

「道徳」(morality)とは、所謂、特定の社会において、その社会の構成員たる個人個人が「相互における共通認識として遵守すべき道徳規範」を指すものである。この、社会一般において広範に認識・堅持されるべき意識が“公的な意味”での「道徳」(morality)を意味し、一方、一人ひとりの人間の行動における道徳的な意識を捉えるとき、その一人ひとりの人間の内に存在する「“超・個人的”な『意識』」そのものが「良心」(conscience)に相当するといえる。

英米では、一般に、「良心の呵責」を“the pangs of conscience”と呼ぶ。conscience は、「良心」、即ち、「個人としての道徳意識」を意味し、pang は「心の痛み」を意味する。

the pangs of conscience について論じるとき、まず、「『良心』(conscience)とは何か」という問題について考察する必要があるだろう。本質論を述べるならば、conscience とは、一個人としての道徳意識を指し、人間が行う行為について、(1)「何が善であるか」(What is good?)、そして、(2)「何が悪であるか」(What is evil?)という如き「“超・個人的”な『意識』」を指すものだ。

英米社会では、the pangs of conscience (良心の呵責) は、相互コミュニケーションにおけ

る関係性・空気感の相違に応じて他の言葉でも表現される。例えば、広義に解釈する「良心の呵責」は、(1) a **twinge of conscience**, (2) **remorse**, (3) **qualm** 等でも表現することができる。それぞれの言葉は、理性的に、「会話の状況・流れ」に応じて使い分けることがスピーカーに期待される。

(1) の場合、**twinge** は、「一本の針で、自分の心が刺されるような感覚」を表現する際に効果的な表現である。即ちこれは、「心の奥底」に内在する一個人としての『道徳観念』が、極めて細く、且つ、頗る鋭利な一本の針で突かれているような意味合いだ。例えば、**I deeply feel a twinge of conscience.** で、「私は、(心の中できりきりと痛むように) 良心の呵責を深く覚える」という意味をなす。

(2) は、個人個人が、自らの心の中で抱く「罪悪感」(**guilt**)から生まれる「罪の意識」(**compunction**)を指し、“相当なる” 悔恨の意識が生じたとき、または、自責の念に駆られたときに使われる。名詞の **remorse** を形容詞にすると **remorseful**。例えば、**I really feel remorseful for it.** とすれば、「私は、(罪の意識から) 本当にそのことを後悔している」という意味になる。

(3) は、自分自身が行った(経験した)“私的行為”についての心配・不安・気のとがめ等から生じる“超・個人的”な『意識』である。**qualm** は、ほとんどの場合、日常生活の中で突然生じる“プライベートな意識”を指すものだ。例えば、道を歩いているとき、自分の目の前で子供が転んだとき、見て見ぬ振りをしてその場を通過した後、「やっぱり声をかけるべきだった」と気がとがめるとき、**qualm** の概念が相当する。動詞の **qualm** を形容詞にすると **qualmish** となり、「気がとがめている、ためらいを感じている」という意味をなす。

<講師からのプレゼント>

この教材の学習においては、生井利幸オリジナルの「英語音声講義」、”the voice of conscience”を併用することによって、いっそう”conscience”についての理解を深めることが可能となります。この教材をたっぷりと時間をかけて精読後、自分なりに丁寧にノートを作成。その後、「英語音声講義」を何度も繰り返し聴き込むことにより、conscience の概念が、学習者の心の奥底に浸透させることが可能となります。

英語は、“極めてデリケート”で、文化的に捉えても、“相当深い”言語です。一般の人々

が述べる、「今や、英語は世界中で話されている。だから、英語は簡単である」という捉え方は、「言語としての英語の深さ」、「英米文化の深遠さ・重さ」に触れていない人が言う「思索不在・責任不在の発言」です。

まず第一に、この教材で、日本語で、”conscience”の言葉の概念をしっかりと認識・理解し、基礎学習を行った上で英語音声講義を聴き込むと、極めて堅実な方法で、地に足の着いた学習を行うことが可能となります。